

2024年東大比較文學會会員主要業績リスト

氏名	業績タイトル(最大3つ)	出版社、掲載媒体名	出版年月
李 太喜	『自由と自己の哲学——運と非合理性の観点から』(単著)	岩波書店	2024年3月
	『野矢哲学に挑む——批判と応答』(共著)	岩波書店	2024年5月
石原 剛	「リスペクタブル・ジャーニーー悪童ユーモアとトム・ソーヤーの運命」	『マーク・トウェインー研究と批評』第23号、日本マーク・トウェイン協会、7－14	2004年6月
伊藤 徳也	「『生活の芸術』の可能性の中心ヘーデカダンス、中庸、合理性」	『九陽読詩会』第9号、137－156頁	2024年3月
稲賀 繁美	『日本の近代思想を読み直す 3 「美／藝術」』	東京大学出版会	2024年3月
	「岡倉覚三」「柳宗悦・矢代幸雄・岡本太郎」「五十嵐一」	小倉紀蔵(編)『比較文明学の50人』筑摩選書、38-56, 140－158、429－432	2024年12月
	Review: Monica Juneja, Can Art History Be Made Global? Meditations from the Periphery, 2023. 21: Inquiries into Art, History, and the Visual – Beiträge zur Kunstgeschichte und visuellen Kultur, Universität Bern	『原語記述論集』第18号、pp.41-53	2024年12月
今橋 映子	(共監修)『比較文学比較文化ハンドブック』	東京大学出版会	2024年8月
	「写真コレクションの「眺め方」ー写真創作の連鎖のために」	『『写真をめぐる100年のものがたり』展カタログ、静岡市美術館、10－13頁	2024年10月
	「学芸は、分断の時代をいかに繋ぎ直すか」	『アステイオン』第100号、59-64頁	2024年6月
牛村 圭	「第1回近代オリンピック アテネ大会の神話を解体する」	『思想』1206号、岩波書店、178-194頁	2024年10月
	「武藤章中将の東京裁判ーその戦争と鎮魂」	『戦争と鎮魂』、晃洋書房、156-187頁	2024年2月
大西 由紀	「喜歌劇『ミカド』に引用された日本の旋律について——鷗外『独逸日記』の記述を手がかりに」	『鷗外』115、2-21頁	2024年7月
	「比較演劇——歌舞伎の国の外国演劇受容」	今橋映子・井上健(監修・編)『比較文学比較文化ハンドブック』(東京大学出版会)	2024年8月
川下 俊文	『第一高等学校と感染症 1904年の腸チフス流行』	科学研究費基盤研究(C)「狩野亨吉文書を活用した近代日本の高等教育および知識人交流の調査研究」	2024年5月
	「越中富山の浄瑠璃文化」	『越中富山の浄瑠璃文化』、1万年堂出版、392-421頁	2024年7月
川本 皓嗣	「『文学理論』と比較文学」	『比較文学比較文化ハンドブック』、東京大学出版会、16-19頁	2024年8月
	「たとえ」	『比較文学比較文化ハンドブック』、東京大学出版会、42-45頁	2024年8月
	「比較詩学」	『比較文学比較文化ハンドブック』、東京大学出版会、82-85頁	2024年8月
古田島 洋介	「日中戦争への鎮魂歌——《寿星鶴算松齡図》を読む」	牛村圭[編]『戦争と鎮魂』、晃洋書房、6-24頁	2024年2月
	「昭和13 年(1938)の英和辞典：石川林四郎[編]『最新コンサイス英和辞典』三省堂」	明星大学《日本文化学科紀要》第32号、63-97頁	2024年3月
	「初読に拘ふこと勿れ——再読文字への誤解を正す」	東アジア比較文化国際会議日本支部《東アジア比較文化研究》第23号、28-43頁	2024年8月
小谷野 敦	「ポストモダンとトランスジェンダー」	『情況』2024年夏(第6期通巻7号)94－100頁	2024年8月
佐々木 悠介	「展覧会&カタログ評「『前衛』写真の精神:なんでもないものの変容 瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄」展」	『比較文学研究』109號、東大比較文學會、139-142頁	2024年1月
	『比較文学比較文化ハンドブック』	東京大学出版会	2024年9月
佐藤 温	『幕末の社会変革と文芸——菊池・大橋家の文人たちの歩みを追って』	文学通信	2024年2月
鈴木 禎宏	「バーナード・リーチ初期作品の研究: 京都国立近代美術館所蔵《素焼着彩人形》について」	京都国立近代美術研研究論集 Cross Sections、11巻、54 - 71頁	2024年3月
	「国立西洋美術館所蔵《陶板:水差し》《陶板:登窯》について: 作者をめぐる考察」	国立西洋美術館研究紀要、28号、41 - 50頁	2024年3月

瀧内 陽	"The Translation of Working-Class Speech and Culture in Japanese Translations of Robert Westall's Novels Set in North-East England"	Children's Literature in Education, vol. 55, pp. 263–280.	2024年6月
竹内 晶子	(共著) <i>A Companion to Nō and Kyōgen Theatre</i> . 2 vols.	Edited by Yamanaka Reiko et al., Leiden: Brill.	2025年1月
田村 隆	「森鷗外の読んだ『源氏物語』」	『むらさき』第61輯、68-74頁	2024年12月
	「『教養』の今昔」	『教養学部報』第659号、1頁	2024年12月
	「第一高等学校と感染症」	科学研究費成果報告(川下俊文氏・鶴田奈月氏との共著)	2024年5月
ディマルコ ルクレツィア	「パチェラー八重子の歌集『若きウタリに』における世界観—キリスト教の神とカムイの描写を手掛かりに」	『比較文学』第66号、日本比較文学会、20~34頁	2024年3月
出口 智之	「『新著月刊』に見る口絵印刷への挑戦—第二期「新小説」との比較を視野に」	『日本近代文学館年誌 資料探索』19、日本近代文学館、18-31頁	2024年3月
	「多重化される物語—泉鏡花「清心庵」と富岡永洗の口絵—」	『女子大國文』175、京都女子大学、93-117頁	2024年9月
	「明治小説の口絵・挿絵と顔の問題」	『「顔」は何を語るのか—過去から未来へ』、Humanities Center Booklet Vol. 24、ヒューマニティーズセンター、26-47頁	2024年12月
寺田 寅彦	「アルフレッド・ブリュノとは何者だったのか」	『フォーレ手帖』第34号、日本フォーレ協会会誌、80－97頁	2024年10月
テレングト アイトル	「超越への親密性—もう一つの日本文学の読み方」	北海学園大学出版会	2024年3月
	"Concerning Poetic Creativity between Imagination and Allegory: Attempt at an Allegorical Interpretation of Coleridge's "KUBLA KHAN""	<i>Journal of East-West Thought</i> , Number 3, Volume 4. p1-15.	2024年9月
	“Poetical Madness and Mimesis: Originality in Western and Mongolian Epics”	International Association for Mongol Studies. Proceedings the 12th International Congress of Mongolists: “Pax Mongolica and Historical Experience”, Section II Current Situation and Historical Development of Mongolian Languages and Literature, Vol.2, pp. 496-503.	2024年12月
永井 久美子	HMCブックレット第24号(共著)『「顔」は何を語るのか——過去から未来へ』	東京大学ヒューマニティーズセンター、1-3、48-59、90、94-95、97-99、101頁	2024年12月
西原 大輔	『一冊で読む 日本の現代詩200』	笠間書院	2024年10月
平川 祐弘	『歴史を複眼で見る』	弦書房	2024年10月
堀江 秀史	「擦れ違う世界認識 谷川俊太郎と寺山修司」	『ユリイカ』第56巻3号、355-368頁	2024年3月
	「クロスジャンル 人はみなクロスジャンルを生きる」	今橋映子・井上健監修『比較文学比較文化ハンドブック』東大出版会、160-164頁	2024年8月
	「書評 大場健司著『1960s 失踪するアメリカ 安部公房とポール・オースターの比較文学的批評』	『比較文学』第66巻、pp.179–183	2024年3月
前島 志保	「座談会というスキャンダル——定期刊行物における〈声〉の位置付け」	前島志保編『EAA Booklet 35/EAA Forum 25 出版・報道文化の近代化2——視覚表現、言語表現、編集手法』、東京大学東アジア藝文書院、23-46頁	2024年3月
	「『カストリ雑誌』研究を越えて——動態としての占領期雑誌研究のすすめ」	石川巧編集代表／カストリ雑誌編集委員会編、『戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌』、勉誠社	2024年6月
	「比較文学と定期刊行物(新聞・雑誌)——豊穠な可能性への扉を開けよう」	『比較文学比較文化ハンドブック』、東京大学出版会、50－51頁	2024年8月
増田 裕美子	「アンドロイドと人間——関係性の問題をめぐって」	『「漱石アンドロイド」プロジェクト2023年度共同研究報告書』、14-17頁	2024年3月
	ブラダン・ゴウランガ・チャラン著『世界文学としての方丈記』(法蔵館、2022年)(書評)	『比較文学』第66巻、161-164頁	2024年3月
松居 竜五	『熊楠さん、世界を歩く。冒険と学問のマンドラへ』	岩波書店、全226頁	2024年3月
松枝 佳奈	「明治「知露派文人ジャーナリスト」の形成——二葉亭四迷・大庭柯公の場合」	『EAA Booklet 34/EAA Forum 24 出版・報道文化の近代化1——「人」から読み解く』(34) 63-78頁	2024年3月
	Naganuma, S, Minematsu, T, Matsueda, K, Oshima, J. "Use of Generative AI for Boundary Crossing in Interdisciplinary Collaborative Research."	CSCL Proceedings (ISLS Annual Meeting 2024)	2024年12月 (in press)
	"To Study Russian Literature in English: The Reception of Maurice Baring and Dmitry Merezhkovsky in Modern Japan"	The XXIII ICLA Congress Proceedings	2024年12月 (in press)
山中 由里子	「『驚異の部屋』の怪物たち——不思議な生きものが生まれる現場」	山口未花子、石倉敏明、盛口満編『〈動物をえがく〉人類学：人はなぜ動物にひかれるのか』、岩波書店、134 - 152頁	2024年12月
	「神話・伝説・伝承・民話・説話—作者のいない語り」	今橋映子、井上健編『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、110頁	2024年8月
	「中東／西アジア—知の交差路に挑戦しよう」	今橋映子、井上健編『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、172-173頁	2024年8月